

「資源循環型パッケージングカンパニー」を目ざして

2023年12月期決算説明資料



**TAKEMOTO**

竹本容器株式会社  
( 東証スタンダード市場 4248 )  
2024年1月31日

# 資料構成

1. 2023年12月期トピックス

2. 2023年12月期業績概要

3. 中期計画及び2024年12月期見通し

4. 参考資料



# 1. 2023年12月期トピックス

## 通期業績総括 ①

### 【業績】

- 連結売上高は、143億17百万円（前年同期比3.8%減）
- 連結営業利益は、5億22百万円（前年同期比37.6%減）
- EBITDAは、15億18百万円（前年同期比17.1%減）

### 【特徴】

- 国内は4Qの化粧品容器向けの受注が増加し、通期売上高を押し上げた。また、製品単価見直し等の効果により下期の利益率が改善。一方、中国はゼロコロナ政策解除後も消費が伸びないことに加えて、競合先との競争が激化。インドは前期比で大幅増収
- バイオマス樹脂やリサイクル樹脂を使用した容器が伸長。新たに追加した区分※を含め資源循環型パッケージング売上は34億49百万円(連結売上高の24.1%) と拡大  
※今期より「資源循環が容易に可能な製品」を集計対象に追加しております
- 国内は資源高継続。原材料費及び水道光熱費負担が前年同期比で増加

# 1. 2023年12月期トピックス

## 通期業績総括 ②

### 【日本】

- 売上面では4Qの受注増により増収。売上高は114億3百万円（前年同期比0.1%増）となった。
- お客様の環境意識が一層高まり、資源循環型パッケージング売上が引き続き伸長。特に、バイオマス樹脂やリサイクル樹脂を使用した容器は引き続き需要増
- 利益面では原材料費・水道光熱費の高止まりによるコスト増、展示会開催による広告宣伝費増により、8億27百万円(前年同期比10.3%減)と減益になるも、製品単価見直し等の効果もあり、下期に入り減益幅は縮小傾向に

# 1. 2023年12月期トピックス

## 通期業績総括 ③

### 【中国】

- 売上高は24億34百万円(前年同期比で23.1%減)と大幅減収
- ゼロコロナ政策解除後の消費回復が鈍く、お客様の在庫調整が長期化。更に競合先との競争の激化などもあり、受注が低調に推移
- 売上高の減少から工場稼働率が低下し2億74百万円の営業赤字

### 【インド】

- 売上高は4億11百万円（前年同期比52.1%増）と過去最高を更新
- インド化粧品市場の活況が継続。営業活動を通じ当社の特徴(アイテム数の多さ等)が浸透し、取引顧客数も増加
- 売上増や生産能力向上に伴い粗利ベースで黒字を確保。金型増加により取扱製品数を拡大し、顧客層拡大等の諸施策を実施するなど営業利益黒字化へ向けた取組みを継続

# 資料構成

1. 2023年12月期トピックス

2. 2023年12月期業績概要

3. 中期計画及び2024年12月期見通し

4. 参考資料



## 2. 2023年12月期業績概要

### 2023年12月期連結決算ハイライト

	2022年12月期 ¥19.50/RMB ¥131.62/USD	2023年12月期 ¥19.82/RMB ¥140.67/USD	前年同期比		2023年計画比 <sup>(※1)</sup>	
			増減	増減率	増減	増減率
売上高	百万円 14,885	百万円 14,317	百万円 ▲568	▲3.8%	百万円 ▲2,605	▲15.4%
営業利益	836	522	▲314	▲37.6%	▲809	▲60.8%
売上高営業利益率	5.6%	3.6%	▲2.0P	—	▲4.2P	—
経常利益	908	607	▲301	▲33.1%	▲755	▲55.4%
当期純利益	368	294	▲74	▲20.1%	▲637	▲68.4%

減価償却費	995	996
原材料費	2,267	2,126
設備投資額	792	1,409
(うち 金型)	170	297
EBITDA	1,831	1,518
EBITDA比率	12.3%	10.6%

(※1) 期初に設定した計画との比較

## 2. 2023年12月期業績概要

### 地域別グループ企業業績

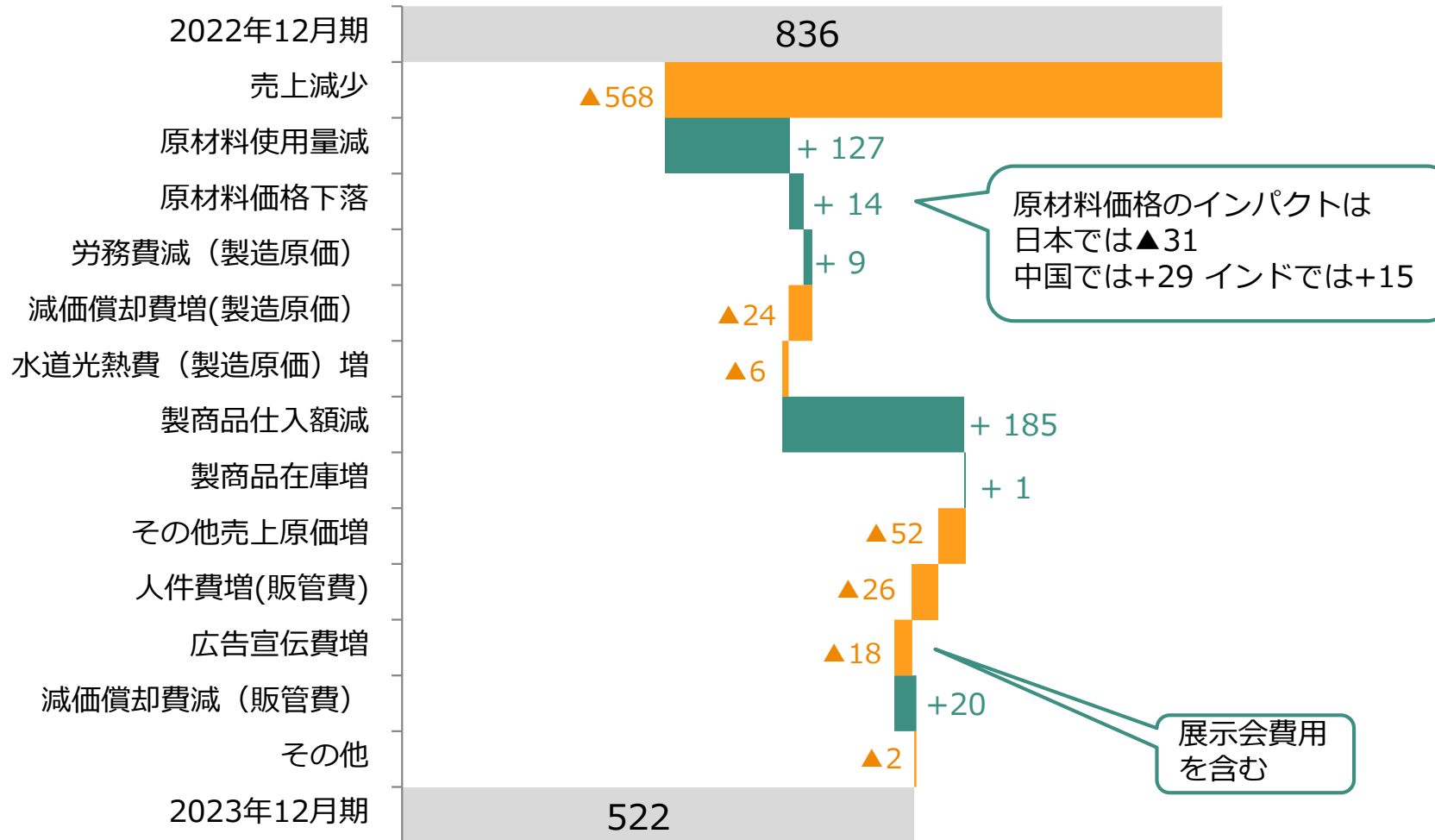
日本	2022年12月期	2023年12月期	前年同期比		計画比		百万円
			増減	増減率	増減	増減率	
売上高	11,390	11,403	+12	+0.1%	▲1,139	▲9.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本はお客様の環境意識の一層の高まりから資源循環型パッケージング売上が引き続き伸長。受注は4Qで回復傾向に。売上高増加の要因となった</li> <li>利益面では資源高による負担増が継続。販売価格への転嫁を進めていることもあり、下期の営業利益率は改善傾向</li> </ul>
営業利益	922	827	▲95	▲10.3%	▲447	▲35.1%	
営業利益率	8.1%	7.3%	▲0.8P	—	▲2.9P	—	
中国	2022年12月期 ¥19.50/RMB	2023年12月期 ¥19.82/RMB	前年同期比		計画比		百万円
			増減	増減率	増減	増減率	
売上高	3,165 (162)	2,434 (122)	▲731 (▲39)	▲23.1% ▲24.4%	▲1,465 (▲72)	▲37.6% ▲37.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国は昨年12月のゼロコロナ政策解除後も化粧品需要が回復せず、在庫調整が長期化し売上は低迷</li> <li>利益面でも売上減少により工場の稼働が低下したことから粗利額が減少し営業利益は大幅赤字に</li> </ul>
営業利益	▲59 (▲3)	▲274 (▲13)	▲215 (▲10)	— —	▲361 (▲18)	— —	
営業利益率	—	—	—	—	▲13.5P	—	
※ ( ) 内はRMBベース:百万円							
その他地域	2022年12月期 ¥131.62/US\$ ¥138.14/€ ¥1.68/INR ¥3.75/TB	2023年12月期 ¥140.67/US\$ ¥152.11/€ ¥1.71/INR ¥4.04/TB	前年同期比		計画比		百万円
			増減	増減率	増減	増減率	
売上高	528	725	+196	+37.2%	▲12	0.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカは大口顧客の受注増の影響で売上が計画比、昨年比増で推移</li> <li>オランダはリピート増により売上が昨年比増で推移。EC在庫販売を開始し販路拡大を狙う</li> <li>インド国内化粧品市場の需要は旺盛。製品拡充効果もあり、新規顧客を取り込み需要増。売上は昨年比増で推移</li> </ul>
営業利益	▲34	▲39	▲4	—	▲7	—	



## 2. 2023年12月期業績概要

### 2023年12月期 営業利益の変動分析

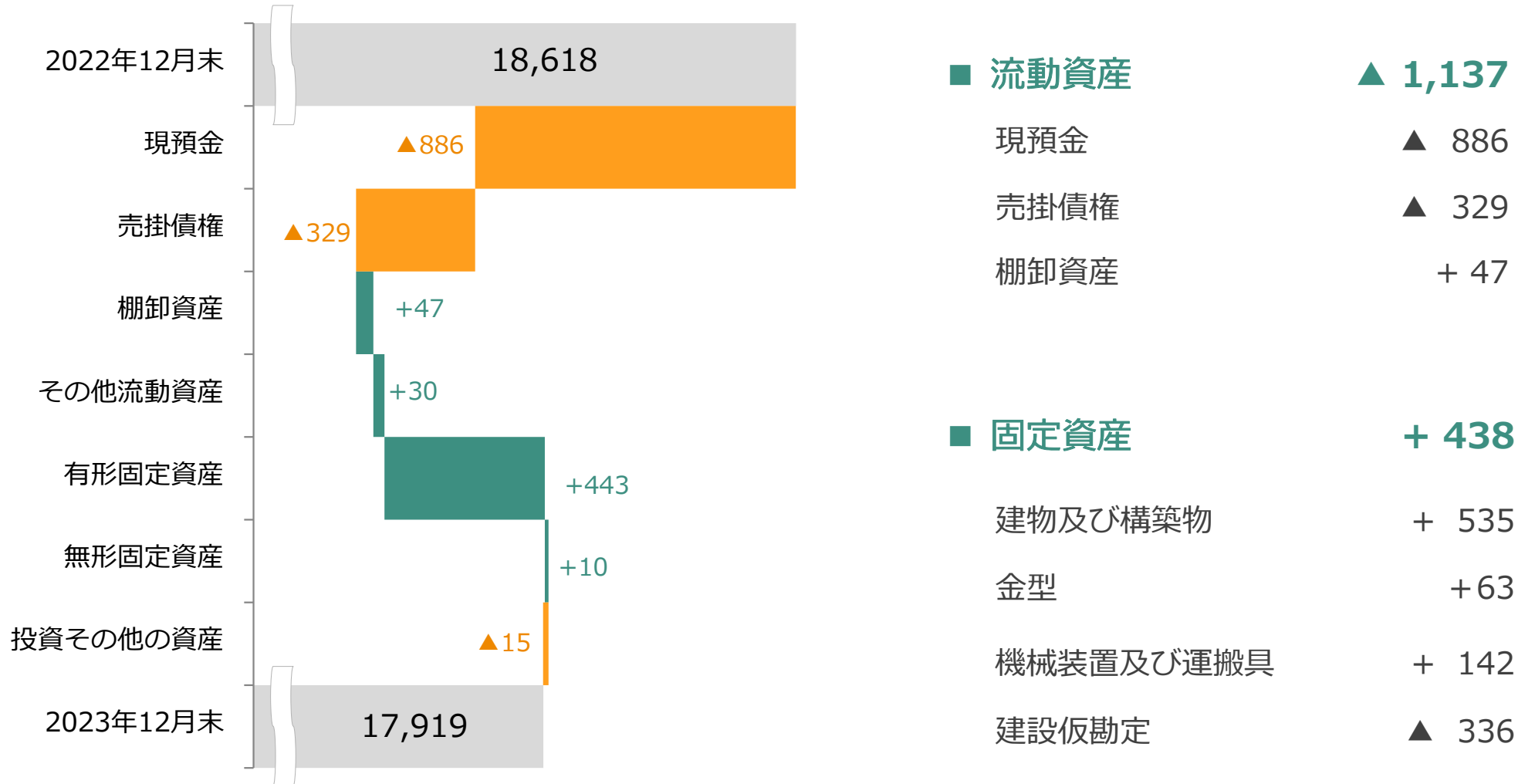
単位：百万円



## 2. 2023年12月期業績概要

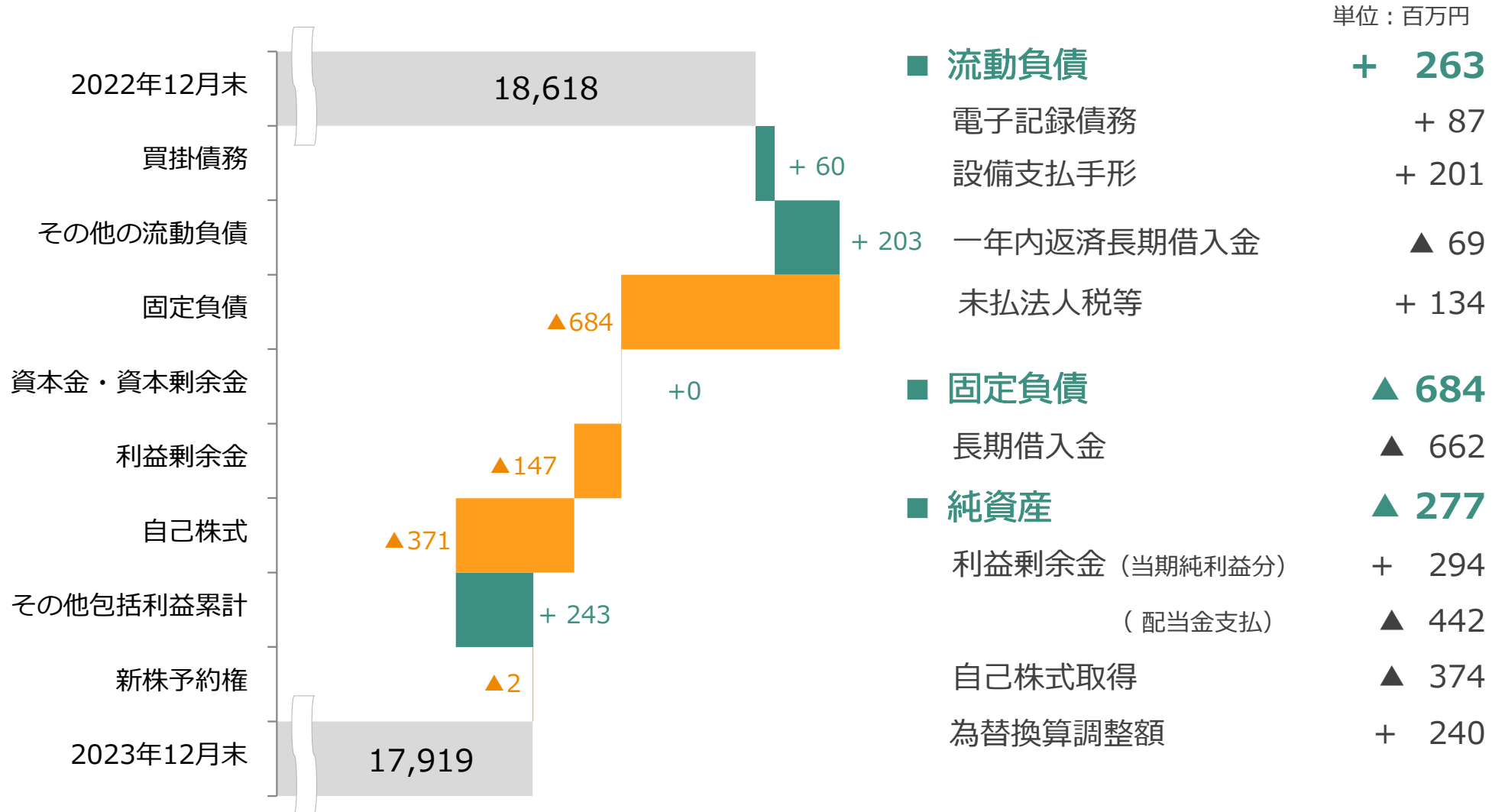
### 2023年12月期 連結貸借対照表 資産の部

単位：百万円



## 2. 2023年12月期業績概要

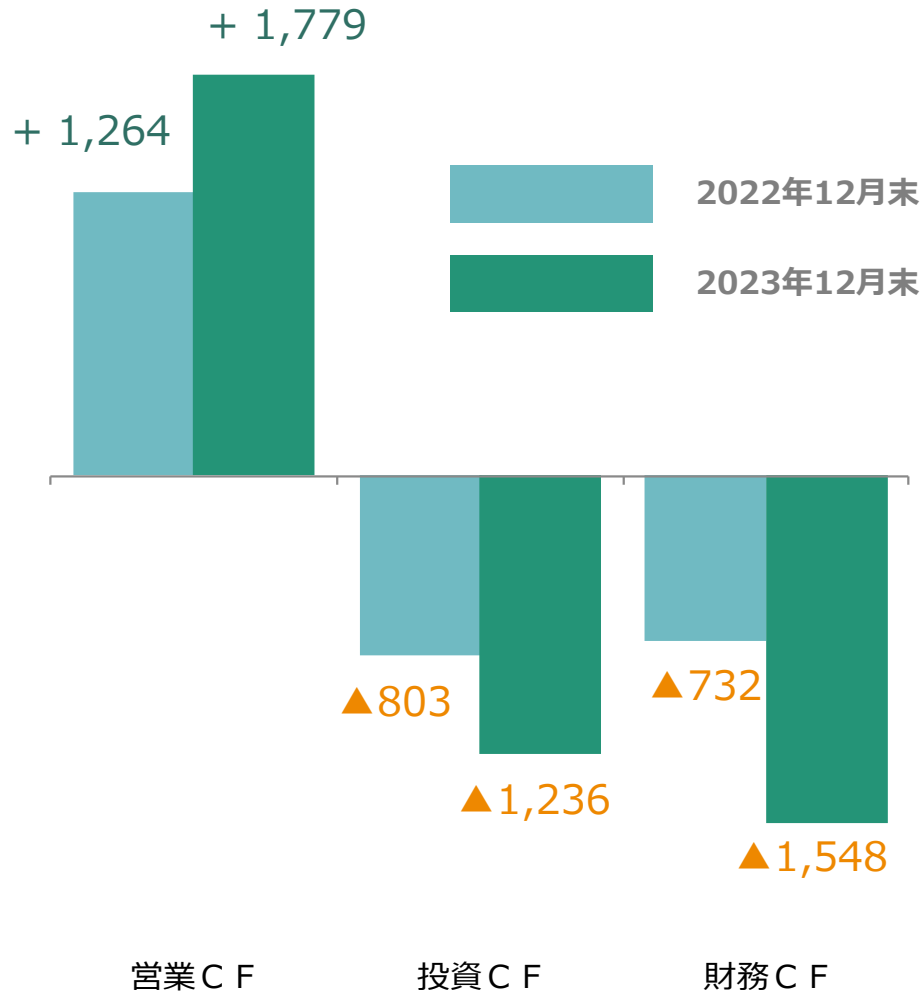
### 2023年12月期 連結貸借対照表 負債・純資産の部



## 2. 2023年12月期業績概要

### 2023年12月期連結キャッシュ・フローの増減

単位：百万円



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー	+ 1,779
税金等調整前当期純利益	+ 606
減価償却費	+ 996
法人税等の支払額	▲ 196
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,236
固定資産の取得による支出	▲ 1,240
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,548
長期借入金の返済による支出	▲ 732
自己株式の取得	▲ 374
配当金の支払額	▲ 442
■ 換算差額	+ 117
■ <u>現金及び現金同等物の増減額</u>	<u>▲ 887</u>
■ <u>現金及び現金同等物の期首残高</u>	<u>6,368</u>
■ <u>現金及び現金同等物の期末残高</u>	<u>5,481</u>

# 資料構成

1. 2023年12月期トピックス
2. 2023年12月期業績概要
3. 中期計画及び2024年12月期見通し
4. 参考資料



### 3. 中期計画（2024-26） 前年の中期計画（2023-25）との比較

#### ■ 2023年2月6日公表値

##### 2023年～2025年中期計画

	2022(実績)	2023(計)	2024(計)	2025(計)
	百万円	百万円	百万円	百万円
売上高	14,885	16,900	18,400	19,800
営業利益	836	1,330	1,600	1,980
EBITDA	1,831	2,395	2,830	3,270
設備投資額	792	2,250	1,040	1,060

#### ■ 2024年1月31日公表値

##### 2024年～2026年中期計画

	2023(実績)	2024(計)	2025(計)	2026(計)
	百万円	百万円	百万円	百万円
売上高	14,317	15,250	16,720	18,500
営業利益	522	820	1,270	1,670
EBITDA	1,260	1,830	2,395	2,910
設備投資額	1,409	1,270	1,050	1,160

2023年1月時点での想定：

- ① 化粧品向け容器需要は資源循環型パッケージングを軸に拡大想定、原材料価格は2022年末比下落基調も水道光熱費上昇想定
- ② 金型投資の拡大、資源循環型パッケージングの新製品開発、即納体制の加速で需要取込み
- ③ 2023年3月結城事業所のブロー棟本格稼働し生産能力向上を図る
- ④ DX推進による業務効率改善、スピード向上、2023年4月欧州でのE C販売稼働予定

今回計画策定時の想定：

- ① 化粧品向け容器需要は資源循環型パッケージングを軸に拡大想定、新製品開発、即納体制の加速で需要取込み、新規顧客、新規案件増を狙う。人材投資を積極的に推進
- ② 原材料価格は運搬費高騰の影響を加味。水道光熱費も高止まりを想定
- ③ 人手不足への対応として自動化、ロボット化を継続
- ④ 2024年日本でのE C販売稼働を予定

### 3. 中期計画数値とポイント（全社）

#### 中期計画（2024～2026）

	2024(計)	2025(計)	2026(計)
	百万円	百万円	百万円
売上高	15,250	16,720	18,500
営業利益	820	1,270	1,670
売上高 営業利益率	5.4%	7.6%	9.0%
経常利益	820	1,290	1,680
当期純利益	500	900	1,190
減価償却費	1,010	1,120	1,240
設備投資額	1,270	1,050	1,160
(うち 金型)	320	260	260
EBITDA	1,830	2,390	2,910
EBITDA%	12.0%	14.3%	15.7%

#### 前提条件

- 原材料: 2024年以降は2023年末水準を上回る想定（運搬費増加も加味）
- 日本国内の水道光熱費は昨年比同程度を見込む（激変緩和措置の動向注視）
- 為替レート: 19.0円/元、145.0円/ドルで想定

#### 中期計画数値のポイント

2030年ビジョン達成に向けた事業基盤の強化

- ① カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーに配慮した資源循環型パッケージングの新製品開発を継続する
- ② TOGETHER LABの活用を促進することで、開発速度の迅速化及び「共創開発」のコンセプトを実現する
- ③ 生産部門の自動化・ロボット化投資を実行し、生産の安定性を高める
- ④ 営業強化により新規顧客、新規案件の増加を狙う。人的投資を積極的に推進し、コア人材の採用、人材育成を強化する
- ⑤ マーケティング・開発・製造・納品をデジタルで繋ぐことで、圧倒的なスピードを実現する

### 3. 中期計画数値とポイント（地域別）

#### 地域別グループ企業計画

2024年～2026年までの中期計画は2030年ビジョン達成に向けた取り組みの一環

百万円

地域		2023(実績)	2024(計)	2025(計)	2026(計)	
日本						2030年ビジョン（日本）～2030年までに200億円に
	売上高	11,403	12,130	13,200	14,350	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源循環型パッケージング開発を主軸として取り組む</li> <li>WEBを活用しコンタクト数増加、LAB活用で迅速な製品開発を提供</li> <li>人材投資、人材育成に積極的に取り組む</li> <li>自動化、ロボット化の推進で安定生産の実現</li> </ul>
	（増減）	+12	+727	+1,070	+ 1,150	
	営業利益	827	950	1,280	1,460	
	（利益率）	7.3%	7.8%	9.7%	10.2%	
	EBITDA	1,520	1,680	2,010	2,180	
	EBITDA%	13.3%	13.9%	15.2%	15.1%	
中国						
	売上高	2,434	2,375	2,470	2,950	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後のニーズが高まることが予測される資源循環型パッケージング関連に注力</li> <li>新製品開発の加速</li> <li>日本での販促ツールの推進、化粧品以外の分野への進出</li> <li>自動化、ロボット化、無人化ラインの導入</li> </ul>
	（増減）	▲731	+59	+95	+480	
	営業利益	▲274	▲170	▲99	+75	
	（利益率）	-	-	-	2.5%	
	EBITDA	▲15	50	160	370	
	EBITDA%	-	2.1%	6.4%	12.6%	
その他						
	売上高	725	1,020	1,280	1,530	
	（増減）	+196	+295	+260	+250	
	営業利益	▲39	1	50	95	
	（利益率）	-	0.1 %	3.9%	6.2%	

※ 上記数値は所在地別のグループ会社業績であり、地域別セグメントとは一致しません



### 3. 2024年12月期業績見通し

#### 2024年12月期 連結利益計画

	2023年12月期実績	2024年12月期計画	前期比	
	¥19.82/RMB ¥140.67/USD	¥19.00/RMB ¥145.00/USD	百万円	%
売上高	14,317	15,250	932	+6.5
粗利額	3,818	4,180	361	+9.5
粗利率	26.7%	27.4%	0.7P	-
営業利益	522	820	297	+57.1
売上高営業利益率	3.6%	5.4%	1.8 P	-
経常利益	607	820	212	+35.0
当期純利益	294	500	205	+69.6
減価償却費	996	1,010		
原材料費	2,126	2,290		
設備投資額	1,409	1,270		
(うち 金型)	297	320		
EBITDA	1,518	1,830		
EBITDAマージン	10.6%	12.0%		

#### 単年度計画ポイント

##### 売上高

サーキュラーエコノミーの浸透を受け資源循環型パッケージングの需要がさらに高まる想定  
以下の施策により販売金額増加を目指す

- 資源循環型パッケージングの新製品開発を加速し多様なニーズに対応
- 欧米、インド向けでも短納期での製品提供を可能とする即納体制の構築
- WEBマーケティング強化により幅広い顧客との接触機会の確保
- 安定的な生産計画を実現するため、省人化、ロボット化の積極的な推進を図る
- 人材投資、人材育成に積極的な投資を行いコア人材を育成する

##### 営業利益

原材料価格、水道光熱費は高まり、運搬費も上昇する中、将来のコア人材確保のための人的投資も積極的に実施。新規案件の獲得増、販売価格等の見直し、内製率の向上等により、粗利額は増加。営業利益は増益を見込む

### 3. 2024年12月期業績見通し

#### 製造原価の内訳について

	2022年12月期		2023年12月期		2024年12月期 (計画)	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	14,885	100.0	14,317	100.0	15,250	100.0
商品及び製品売上高	14,847	99.7	14,302	99.9	15,150	99.3
商品及び製品売上原価	10,729	72.1	10,449	73.0	11,000	72.1
商品及び製品仕入高	3,808	25.6	3,607	25.2	3,865	25.3
製造原価	6,921	46.5	6,841	47.8	7,130	46.7
材料費	2,267	15.2	2,126	14.9	2,290	15.0
労務費	2,492	16.7	2,461	17.2	2,460	16.1
経費	2,160	14.5	2,226	15.6	2,380	15.6
売上総利益	4,107	27.6	3,818	26.7	4,180	27.4

※2024年12月期の材料購入単価は日本国内では運搬費の上昇を見込み2023期末水準を上回る想定  
社内生産量の増加に取組むため、全体の材料費は増加を見込む  
日本国内の水道光熱費は昨年比同程度を想定(ただし激変緩和措置の動向は注視)

#### 為替感応度について

1円円安となった場合の営業利益の影響額

	想定為替レート	営業利益影響額
対人民元	19.0円	▲8百万円
対米ドル	145.0円	▲10百万円

- 現状では日本国内⇔海外の製商品の取引はごく少量で売上金額への影響は限定的
- 人民元に関しては、中国子会社の円換算の影響度が大きい
- 米ドルに関しては、米子会社の規模が小さいため、日本での原材料調達額への影響が相対的に大きい

### 3. 2024年12月期業績見通し

#### 2024年12月期設備投資計画について

お客様の求める商品価値の創造とより高い満足を目指し、Standoutなパッケージングソリューションを提供するための容器開発、生産能力・生産効率の向上、海外市場での品揃え強化などを目的とした設備投資を計画

百万円

	国内	海外	合計
自動化投資、ロボット化投資	320 25.2%	90 7.1%	410 32.3%
機械装置（成形機、多層機、画像検査装置、自動機など）	290 22.8%	60 4.7%	350 27.6%
金型	170 13.4%	150 11.8%	320 25.2%
その他	190 15.0%	- -	190 15.0%
合 計	970 76.4%	300 23.6%	1,270 100.0%

### 3. 財務戦略 ～ 配当政策

2021年12月に、株主還元策として2024年までの中期経営計画期間中について純資産配当率(DOE) 4.0%を目途とすることにいたしました。

これにより、2024年12月期の年間配当金予想は1株当たり36円00銭（配当性向は86.6%）としております。

	2023年12月期	2024年12月期計画
中間配当金	18.00円	18.00円（予定）
期末配当金	18.00円	18.00円（予定）
年間配当金	36.0円	36.0円
純資産配当率 (DOE)	4.0%	4.0%
配当性向	147.5%	86.6%

# 資料構成

1. 2023年12月期トピックス
2. 2023年12月期業績概要
3. 中期計画及び2024年12月期見通し
4. 参考資料



## 4. 参考資料

### 地域別グループ企業業績（2021年からの四半期推移）

(百万円)

地域		2021年 第1四半期	2021年 第2四半期	2021年 第3四半期	2021年 第4四半期	2022年 第1四半期	2022年 第2四半期	2022年 第3四半期	2022年 第4四半期	2023年 第1四半期	2023年 第2四半期	2023年 第3四半期	2023年 第4四半期
日本	売上高	2,890	3,086	3,196	2,832	2,669	2,923	2,885	2,912	2,710	2,921	2,817	2,953
	粗利額	997	981	1,037	925	817	881	828	814	756	822	834	859
	営業利益	410	327	451	296	220	267	225	208	154	191	231	250
中国	売上高	871	911	875	886	850	650	989	675	714	602	586	530
	粗利額	254	282	204	230	229	107	182	131	138	77	102	73
	営業利益	112	126	35	60	59	▲58	▲23	▲36	▲29	▲92	▲69	▲84
欧米	売上高	61	105	66	64	70	39	44	51	24	65	79	62
	粗利額	13	21	14	12	17	13	13	16	8	14	17	18
	営業利益	0	7	1	▲6	4	0	0	1	▲7	0	0	0
その他 アジア	売上高	38	48	40	53	75	83	89	73	114	130	133	115
	粗利額	▲2	3	0	0	11	12	14	16	25	28	22	16
	営業利益	▲20	▲13	▲19	▲21	▲9	▲9	▲9	▲13	2	▲2	▲13	▲18
連結	売上高	3,803	4,079	4,105	3,787	3,606	3,653	3,965	3,659	3,502	3,654	3,547	3,613
	粗利額	1,263	1,288	1,257	1,169	1,077	1,014	1,040	976	929	943	975	968
	営業利益	503	450	472	328	277	202	195	161	122	98	151	159

## 4. 参考資料

### 地域別グループ企業業績（2019年からの年間推移）

(百万円)

地域		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
		金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	売上高	11,741	▲2.7%	11,651	▲0.8%	12,005	+3.0%	11,390	▲5.1%	11,403	+0.1%
	粗利額	3,730	+1.7%	3,917	+5.0%	3,942	+0.6%	3,341	▲15.2%	3,272	▲2.1%
	営業利益	1,277	+2.8%	1,429	+11.9%	1,485	+3.9%	922	▲37.9%	827	▲10.3%
中国	売上高	3,438	▲12.3%	3,149	▲8.4%	3,544	+12.5%	3,165	▲10.7%	2,434	▲23.1%
	粗利額	1,003	▲9.0%	993	▲1.0%	971	▲2.2%	651	▲33.0%	391	▲39.8%
	営業利益	433	▲15.8%	472	+8.9%	335	▲29.0%	▲59	—	▲274	—
欧米	売上高	164	▲43.0%	184	+12.0%	297	+61.2%	206	▲30.5%	231	+12.0%
	粗利額	40	▲40.8%	41	+1.7%	62	+49.4%	60	▲2.1%	57	▲4.9%
	営業利益	▲31	—	▲10	—	3	—	7	+147.8%	▲7	—
その他 アジア	売上高	69	+106.5%	109	+57.7%	181	+64.7%	321	+77.6%	493	53.4%
	粗利額	▲49	—	▲39	—	2	—	55	+2,472%	93	66.9%
	営業利益	▲147	—	▲119	—	▲74	—	▲41	—	▲31	—
連結	売上高	15,196	▲5.2%	14,863	▲2.2%	15,776	+6.1%	14,885	▲5.6%	14,317	▲3.8%
	粗利額	4,726	▲1.9%	4,912	+3.9%	4,979	+1.4%	4,107	▲17.5%	3,818	▲7.1%
	営業利益	1,538	▲5.7%	1,778	+15.6%	1,754	▲1.3%	836	▲52.4%	522	▲37.6%

## 4. 参考資料

### 区分別販売実績（2021年からの販売先の主要事業内容ごとの四半期推移）

(百万円)

	2021年 第1四半期	2021年 第2四半期	2021年 第3四半期	2021年 第4四半期	2022年 第1四半期	2022年 第2四半期	2022年 第3四半期	2022年 第4四半期	2023年 第1四半期	2023年 第2四半期	2023年 第3四半期	2023年 第4四半期
化粧・美容	2,054	2,399	2,380	2,069	2,109	2,293	2,315	2,219	1,998	2,192	2,090	2,133
日用・雑貨	249	232	229	219	217	205	215	206	263	255	237	229
食品・ 健康食品	352	356	389	372	323	326	346	339	337	388	341	320
化学・医薬	243	244	340	267	200	199	217	188	194	180	212	199
卸、その他	903	845	765	859	754	628	870	706	707	637	664	730
合計	3,803	4,079	4,105	3,787	3,606	3,653	3,965	3,659	3,502	3,654	3,547	3,613

### 区分別販売実績（2021年からの製商品の内訳ごとの四半期推移）

(百万円)

	2021年 第1四半期	2021年 第2四半期	2021年 第3四半期	2021年 第4四半期	2022年 第1四半期	2022年 第2四半期	2022年 第3四半期	2022年 第4四半期	2023年 第1四半期	2023年 第2四半期	2023年 第3四半期	2023年 第4四半期
スタンダード ボトル	2,791	2,980	2,993	2,920	2,769	2,759	2,974	2,743	2,677	2,848	2,716	2,723
ビスパーク	352	366	417	280	312	292	385	312	333	304	329	337
他社製品	583	679	634	489	483	589	550	565	465	475	471	524
材料その他	75	52	60	98	40	12	54	38	25	26	29	27
合計	3,803	4,079	4,105	3,787	3,606	3,653	3,965	3,659	3,502	3,654	3,547	3,613



## 4. 参考資料

### 区分別販売実績（2019年からの販売先の主要事業内容ごとの年間推移）

2019年は中国のEC規制がきっかけとなり化粧品需要が減少。さらに容器不足に起因する先行調達の反動もあり売上高は大幅減少。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、外出機会の減少による化粧品向け需要が減少。一方、衛生関連用品の需要は増加。2021年は衛生関連用品需要は一段落したものの、口臭衛生関連は需要増で化学・医薬は伸長。資源循環型パッケージングの伸びも後押しし化粧品向けを中心に売上が拡大。2022年は3月までの行動制限の影響や下期の第7波、8波と繰り返される感染者数増加の影響もあり、化粧品需要が本格的に回復するまでには至らず前年並み。前年度の口臭衛生関連の需要は一段落し、化学・医薬品は減少。2023年は4Qの化粧品、食品向けの受注増で売上は前年並みを確保。中国は売上大幅減もインドは化粧品向け好調

(百万円)

	2019年			2020年			2021年			2022年			2023年		
	金額	構成比	増減率	金額	構成比	増減率	金額	構成比	増減率	金額	構成比	増減率	金額	構成比	増減率
化粧・美容	8,802	57.9	▲8.8	8,147	54.8	▲7.4	8,904	56.4	9.3	8,938	60.0	0.4	8,415	58.8	▲5.8
日用・雑貨	705	4.6	1.0	1,019	6.9	44.5	930	5.9	▲8.7	845	5.7	▲9.1	986	6.9	16.6
食品・健康食品	1,385	9.1	5.7	1,347	9.1	▲2.8	1,470	9.3	9.1	1,335	9.0	▲9.2	1,389	9.7	4.0
化学・医薬	812	5.3	▲3.1	906	6.1	11.7	1,096	7.0	20.9	805	5.4	▲26.5	786	5.5	▲2.4
卸、その他	3,490	23.0	▲1.0	3,442	23.2	▲1.4	3,374	21.4	▲2.0	2,960	19.9	▲12.3	2,740	19.1	▲7.4
合計	15,196	100.0	▲5.2	14,863	100.0	▲2.2	15,776	100.0	6.1	14,885	100.0	▲5.6	14,317	100.0	▲3.8

## 4. 参考資料

### 受注実績（2021年からの四半期推移）

(百万円)

	2021年 第1四半期	2021年 第2四半期	2021年 第3四半期	2021年 第4四半期	2022年 第1四半期	2022年 第2四半期	2022年 第3四半期	2022年 第4四半期	2023年 第1四半期	2023年 第2四半期	2023年 第3四半期	2023年 第4四半期
国内	3,380	3,474	2,600	2,924	2,904	3,086	2,894	2,956	2,909	3,026	3,005	3,405
海外	996	1,006	951	1,264	787	926	865	819	797	709	677	749
(うち中国)	875	869	872	1,070	676	781	735	678	640	525	492	571
連結合計	4,376	4,480	3,551	4,189	3,691	4,012	3,760	3,775	3,707	3,735	3,683	4,155

### 受注実績（2019年からの年間推移）

2018年は国内のインバウンド需要もあり容器需要が旺盛で受注は増加。2019年は容器不足に起因する先行調達の反動と中国のEC規制の影響で受注は大きく減少。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により外出機会が減少し、化粧品向け需要が減少するも衛生関連用品の需要が増加。2021年は資源循環型パッケージングの需要増あり。年度後半は第5波の影響もあり国内受注が減少。2022年は国内は3月までの行動制限の影響や下期の第7波、8波の影響もあり、化粧品需要は本格的な回復に至らず。中国はゼロコロナ政策による移動制限の影響で需要が停滞。2023年は日本は年度後半から受注回復基調へ。一方中国は景気低迷による消費減から受注が大幅減。インドは化粧品市場の活況が継続し取引顧客層も拡大中

(百万円)

	2019年		2020年		2021年		2022年		2023年	
	受注高	増減率	受注高	増減率	受注高	増減率	受注高	増減率	受注高	増減率
国内	10,815	▲20.5%	12,454	15.2%	12,274	▲1.4%	11,841	▲3.5%	12,347	4.2%
海外	3,812	▲1.6%	3,597	▲5.6%	4,034	12.1%	3,398	▲15.7%	2,934	▲13.7%
(うち中国)	3,598	▲0.3%	3,258	▲9.5%	3,504	7.6%	2,871	▲18.1%	2,229	▲22.3%
連結合計	14,627	▲16.3%	16,051	9.7%	16,308	1.6%	15,240	▲6.5%	15,282	2.3%

## 4. 参考資料

### 為替レート ( PL使用レート)

	2021年 第1四半期	2021年 第2四半期	2021年 第3四半期	2021年 第4四半期	2022年 第1四半期	2022年 第2四半期	2022年 第3四半期	2022年 第4四半期	2023年 第1四半期	2023年 第2四半期	2023年 第3四半期	2023年 第4四半期
円/元	16.38	16.67	16.79	17.04	18.31	18.97	19.38	19.50	19.35	19.46	19.62	19.82
円/米ドル	106.09	107.82	108.58	109.90	116.34	123.14	128.30	131.62	132.42	135.00	138.24	140.67
円/ユーロ	127.81	129.89	129.87	129.91	130.40	134.39	136.05	138.14	142.16	145.93	149.77	152.11
円/ルピー	1.47	1.48	1.48	1.50	1.56	1.62	1.67	1.68	1.62	1.65	1.69	1.71
円/バーツ	3.50	3.50	3.45	3.44	3.52	3.65	3.70	3.75	3.91	3.95	4.01	4.04

## 4. 参考資料

### 金型開発状況 金型の資産状況

3,946型の保有金型のうち約9割は償却済み、収益の源泉であり財務効率に優れる。2023年に日本の金型の一部をインドへ移動

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 (金型数)
日本	完成金型数	152	123	59	97	93	65	116
	廃却・移動	▲30	▲54	▲80	▲99	▲16	▲30	▲53
	保有金型数	2,273	2,342	2,321	2,319	2,396	2,431	2,494
中国	完成金型数	106	96	74	84	89	32	37
	廃却・移動	▲22	9	7	▲159	▲8	▲19	▲15
	保有金型数	998	1,103	1,184	1,109	1,190	1,203	1,225
オランダ	完成金型数	-	-	19	4	-	-	-
	廃却・移動	-	-	-	-	▲23	-	-
	保有金型数	-	-	19	23	-	-	-
インド	完成金型数	-	18	27	48	45	31	35
	廃却・移動	-	-	-	-	-	-	23
	保有金型数	-	18	45	93	138	169	227
連結	完成金型数合計	258	237	179	233	227	128	188
	保有金型数	3,271	3,463	3,569	3,544	3,724	3,803	3,946
		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 (百万円)
連結取得金額		4,706	4,875	4,827	4,654	5,003	5,220	5,541
連結減価償却累計額		▲4,048	▲4,147	▲4,175	▲4,163	▲4,453	▲4,743	▲5,113
連結金型(純額)		657	727	651	490	550	477	540
純額割合		14.0%	14.9%	13.5%	10.3%	11.0%	9.1%	9.8%



竹本容器株式会社  
代表取締役社長

竹本 笑子

会社名 竹本容器株式会社  
Takemoto Yohki Co., Ltd.

設立年月 1953年5月19日（昭和28年）

代表者 代表取締役社長 竹本 笑子

所在地 東京都台東区松が谷2丁目21番5号

事業内容 容器の企画・開発・製造・販売

資本金 8億342万1,725円（2023年12月31日現在）

発行済株式数 12,529,200株（2023年12月31日現在）

単元株主数 9,672名（2023年12月31日現在）

グループ従業員数 826名（2023年12月31日現在）

上場市場 東京証券取引所スタンダード市場

[ 証券コード：4248 ]

ホームページ <https://www.takemotopkg.com>



Global Network



本社



合羽橋ショールーム



大阪営業所・ショールーム



福岡営業所・ショールーム



名古屋営業所・ショールーム



北海道営業所



TOGETHER LAB

本資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時において当社が各種情報により判断した情報ではありますが、その内容を当社として保証するものではありません。

予想数字等は、今後の経済情勢、市場動向等の変化による不確実性を含有しております。また、本資料は投資勧誘を目的に作成したものではありません。投資を行う際は、ご自身のご判断で行って頂きますようお願い申し上げます。

すべては “ Standout ” な  
パッケージングソリューション  
創造のために